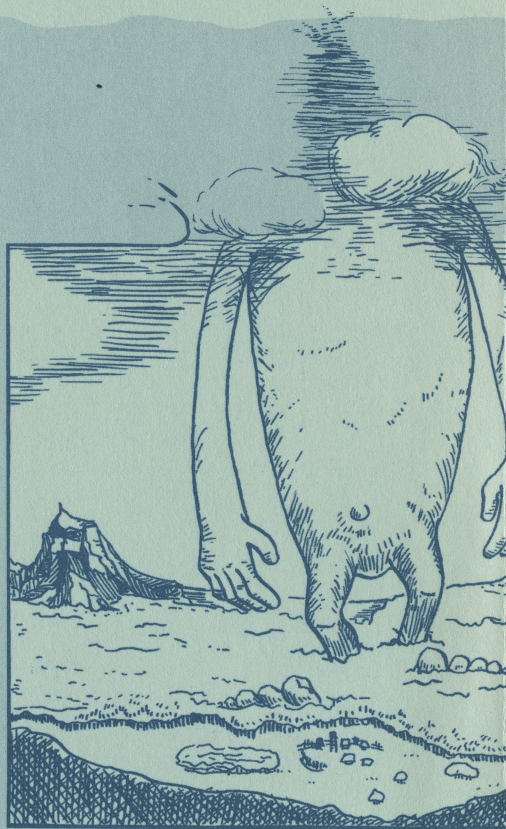
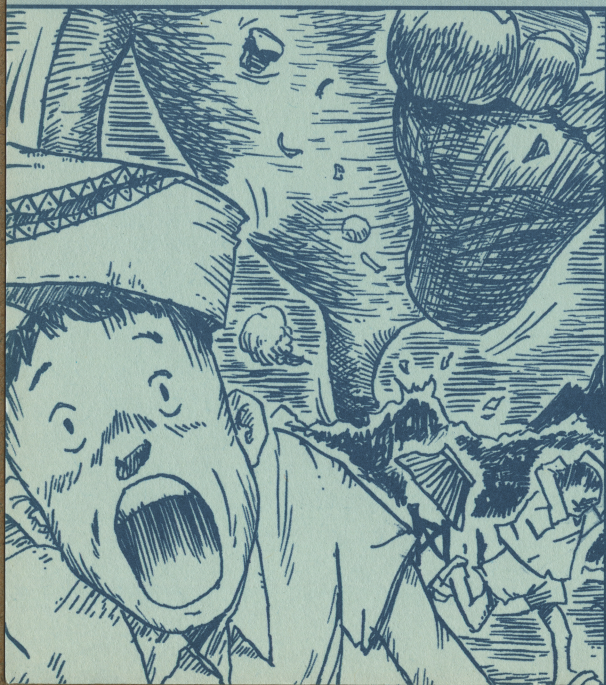
巨人島を旅する兄さんの恋人／タカコ姉さんがヨシノブを訪ねてきて……『巨人のドシン1』のアナザーストーリー第3回！

「ヒデキさんのことで知っていることがあったら教えてほしいの。何も言わずにいなくなってしまったでしょう。ヨシノブくんだったら、何か心あたりがあるかと思って……」

ヨシノブは悲しくなりました。ヒデキ兄さんとタカコ姉さんは恋人同士だったのだから、本当ならヨシノブなんかより、兄さんが失踪してしまった理由を知っているはずなんじゃないかという気がします。

ヒデキ兄さんは大学に通うために下宿をするようになってから家に滅多に帰ってこなくなってしまいました。ですからヨシノブもヒデキ兄さんの大学生活がどんな様子だったのか、ほとんど知りません。一度だけ帰省したときなど、こんな具合に同じことを何度も繰り返し呟いている

「僕には、何もわからないよ」
ヨシノブの答えにタカコ姉さんは寂しげな目をしました。
「そう……今、何処にいるのかしらね」
タカコ姉さんの思いが伝わったのでしょうか、ヨシノブは何だか胸が苦しいような気がしました。
「兄さんは巨人島にいるんだよ！　ほら、この手紙を見て！」
そう言ったらタカコ姉さんは信じてくれるでしょうか⁉
兄さんからの手紙は、その日も届きました。

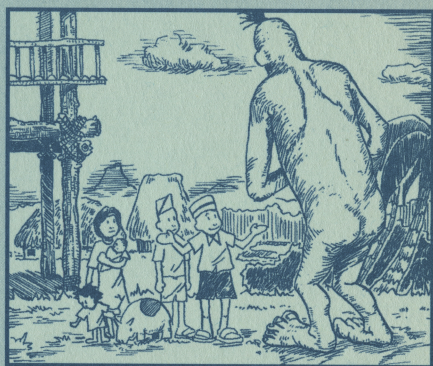
その時、巨人が吠えた。巨人の黄色い身体が一瞬にして赤く染まった。そして、これまでの柔和で慈愛にみちた表情とは全く正反対の恐ろしい形相に変わった。巨人は周囲にある建物を手当たり次第に破壊しはじめた。住民たちは逃げまどっているが、巨人は無慈悲にも彼らを踏み潰す。島全体に溢れる悲痛な叫び。一体、どうしたというのだろう。俺が疑念をもった途端に牧歌的な南の島の光景が、阿鼻叫喚の地獄絵図になってしまうとは！

この熱帯の島にいるっていう物理的な証拠のはずなんだが…。島の人々の奏でる、本能をくすぐるような音楽を聴いていると、そんなこともすべて、どうでもよくなってくるのだが……。

のでした。
「なあ、もう、うんざりだ。全部わかっちまったんだ、すべて回転しているんだ。その円環を切って、スリップアウトするんだ、なあ、わかるだろ、ああ！　うんざりだ」
顔色も悪く、険しい目つきで、以前の優しいヒデキ兄さんとはまるで別人のようでした。ヨシノブには兄さんの言うこともさっぱりでしたが、そんなヨシノブに兄さんは余計に苛立ったようでした。考えてみれば、あれが兄さんを見た最後の姿だったのですが。

ヨシノブへ

この島に現れる巨人と、島の人々の間には不思議な交流がある。彼らは無邪気に戯れたり（なんともアンバランスな光景だが！）、ときには巨人が人々の求めに応じて、樹木を運んだり土地を開拓したりといった仕事を手伝ったりする。すると彼らの村は見事に発展していく。と同時に巨人の身長もどんどん伸びていくのだ。

何故そんな現象がおこるのだろう。目に見えて身の丈が伸びていく生物が存在することなど、常識的に考えればとても信じられない。ナンセンスだ。

ヨシノブ、お前にこの手紙を書いているのは、俺が今見ている風景、そして体験しているできごとが、幻ではないことを確かめたいからなんだ。

きちんとこの手紙は届いているか？
きちんとこの手紙を読んでいるか？
きちんとこの手紙を、俺は書いているのか？

何もかもが疑わしく思えてきた。たとえば俺は、夢を見ていて、夢の中でヨシノブに手紙を書いている。そういうことなのだろうか？　だとしたらヨシノブはこの手紙を読んでいるはずがない。ヨシノブ、俺の手紙が届いているのだとしたら返事をしてくれないか？　俺の大学の研究室へ行けば、俺が今どこにいるのかわかる者がいるはずだ。俺の研究室を訪ねてくれ。

なんだか頭がボーッとしてきたよ。これだって、

周囲に住民たちの姿がなくなると、巨人は凄まじい力で、大地を揺るがしはじめた。地面を引っ張りあげ山をつくり、跳びはねては大地を踏みしめ地面を陥没させる。その跡には濁流が押し寄せ、今まで大地だった場所が海となる……。今、巨人の身長は目測で二百メートルはあるが、その振る舞いはまるで、小さな子供が砂場で遊んでいるようだ。身長はまだまだ、どんどん伸びつつある。

俺の身にも危険が迫っている。俺は島を脱出することにした。幸いなことに、この島にやって来た際に使い、入り江に隠しておいた一人乗り潜水艦はまだ無事にそこにあった。

（次回に続く）

9月号

『巨人のドシン1』

●

ディレクター
飯田和敏

やたっ～！いよいよ決まりました。1999年12月1日N64DD大発売！ しかも、前代未聞の会員制。しかも直販？これについて疑問視する向きもあるかと思いますが、個人的にはおもしろい試みだと思いますよ。今までに無い、まったく新しいゲーム販売の方法ですからね。新しければ何でもいいのか？ いいのだ！ 「新しい」ことが重要。ここまで来たら従来のやり方を踏襲してもつまらんもんねー。さて、『巨人のドシン1』はもうちょいでマスターアップするので同時発売超オッケー、スタンバイ状態です。8月下旬に開催される予定のNintendoスペースワールドではフルコンタクトで『ドシン』を体験できるようにしますのでぜひ遊んでみてくださいね。リラックスして遊べるようにいい椅子も用意しようと思っています。ポケモンや他の新作ゲームのチェックに疲れたら、こちらで休憩するくらいの軽～い気持ちでブースにお越しください。という訳で、本編のゲームはもうすぐ完成。この連載も第3回目を終え、折り返し地点です。ここから物語はアクティブに動き出すでしょう。ヒデキの後を追って2人で旅立つヨシノブとヒデキの恋人タカコ。嫌がおうでもロマンチックなムードが高まってしまいますね。ドキドキです。兄の手紙部分を担当しているのは僕なんですが、本当に南の島に旅立ちゃうんです。そこから原稿をメールすることになります。ドキドキです。

チームDDT 原案・文／飯田和敏 構成・文／相良伸彦 画／山崎廉

この三角形、1～6まで全部集めると、いいことあるかもよ→